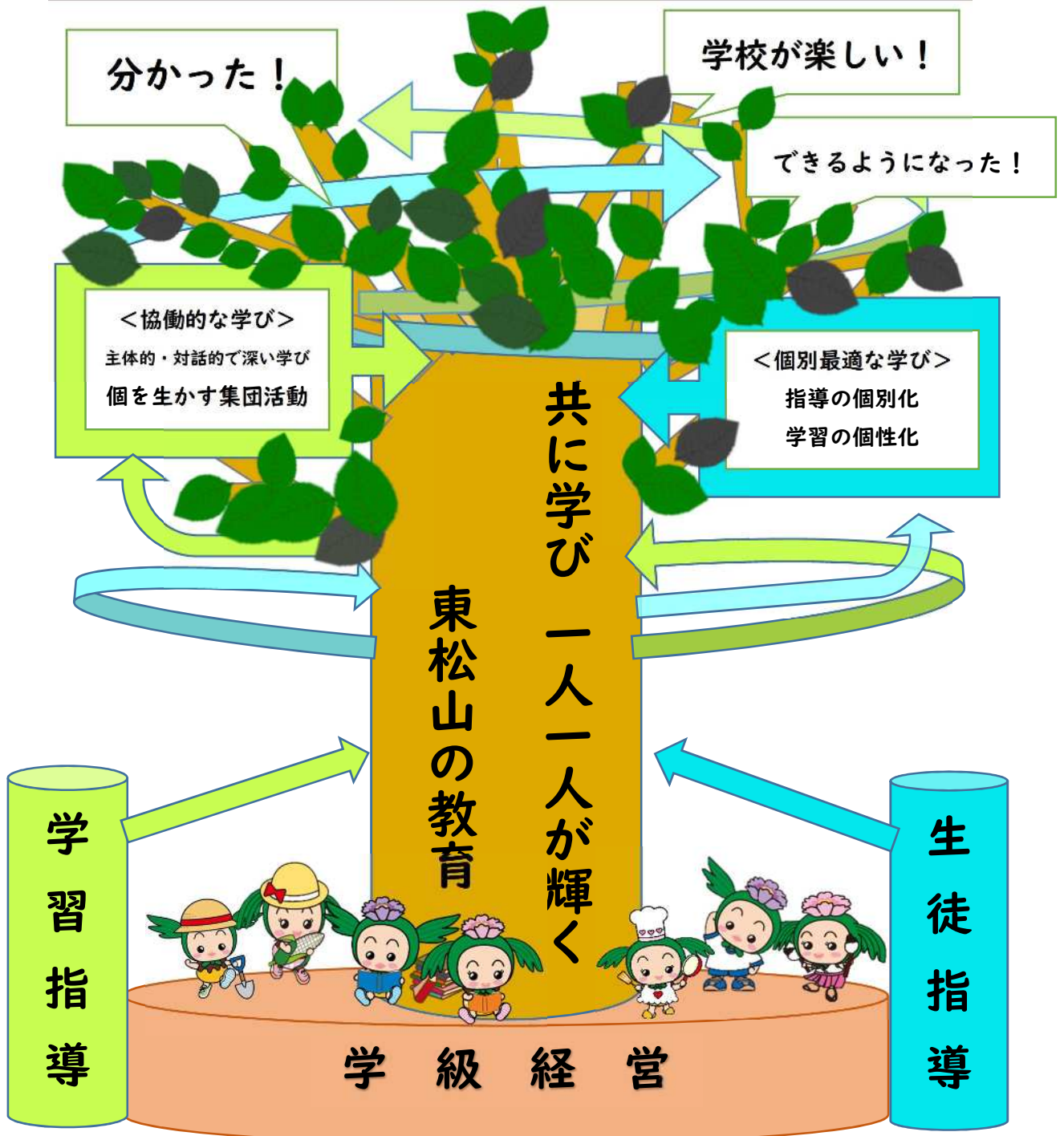


東松山の学級経営 スタンダード

～年度当初版～



令和6年3月
東松山市教育委員会

発刊によせて

「すべては子供たちの学びのために。すべての子供たちの学びのために。」

学校はすべての子供たちが個性を発揮し、笑顔で生活できる学びの場でなくてはなりません。子供が活気にあふれ、瞳を輝かせて取り組むことのできる学級の生活づくりを目指し研鑽を積むことは、教師が大切にしなければならない重要な責務のひとつです。

本市では、平成26年度に授業の基礎・基本となる事項を「東松山の学習指導スタンダード」としてまとめました。令和4年度には、学習指導要領の改訂を受け、主体的・対話的で深い学びを中心に「東松山の学習指導スタンダード（改訂版）」を発刊し、先生方に授業力向上のための指導資料としてご活用いただきました。

この度、学校生活の基盤となる学級経営の充実のため、「東松山の学級経営スタンダード～年度当初版～」を発刊いたします。子供たちにとって、学校生活の基盤となる学級経営の充実は、学習活動をはじめ、様々な教育活動を行う上で重要であり、本市でも柱の1つとして推進しております。

この冊子が、常に先生方の手元に置かれ、「東松山市の学習指導スタンダード」と共に、自己研鑽や校内研修で大いに活用されることを望みます。

すべての子供が「分かった」「できるようになった」「学校が楽しい」と言えるように誠心誠意取り組んでいただきたいと思えます。

令和6年3月

東松山市教育委員会教育長

吉澤 勲

目次

○発刊によせて	p.1
○学級経営の基本的な考え方	p.2
○信頼関係を築く年度当初の出会い	p.3
○朝の会・帰りの会の工夫	p.4
○学級経営の核となる学級活動の充実	p.5
○年度当初学級活動の3つの実践	p.6
○学級目標と個人目標の設定	p.7・8
○係活動と当番活動の特質	p.9・10
○学校生活の基盤となる教室の環境整備	p.11
○生徒指導の基礎	p.12

学級経営の基本的な考え方

学級経営とは、学級を基本組織として展開される教育活動の計画、実施及びその効果の評価の過程と、これに関する学級担任のすべての職務における活動の総称です。具体的には、安心・安定した学級の生活づくり、学習指導の充実、生徒指導の推進、人間関係の醸成等が挙げられます。

学級経営の内容

ア 学校教育目標、重点課題等に関する基本姿勢

学級の実態を踏まえた学級担任としての学級教育の方針「学級目標の設定」など

イ 学級における教育課程の実践・経営

教科領域等の指導充実に向けた効果的な展開など

ウ 学級における教室環境経営

教室環境構成、掲示等の計画、座席の配置、美化や安全など

エ 学級における集団経営

学級組織、児童・生徒理解、人間関係づくりや教育相談の計画、集団活動や生徒指導の構想など

オ 学級におけるその他の経営

保護者・地域等との連携、校内・学年組織の役割、学級事務など

生徒指導をめぐる学級経営上の諸問題 文部省 参照（H元．3）

教育活動が成果を上げるための大前提は「子供の理解」

「この子の得意なことは何だろう？」

「この子の課題は何だろう？」



全て教育活動の中心は「子供」

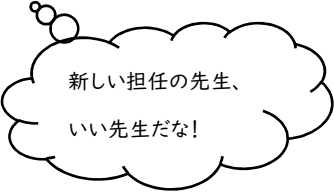
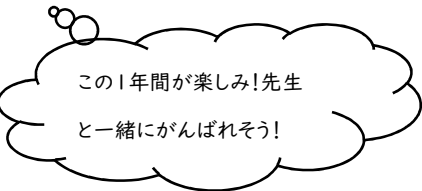
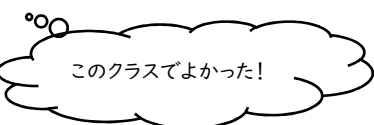
子供の理解を行うためには、実態把握が必要です。

実態把握とは、「個々の能力」の把握、性格的な特徴、その子が何に興味をもっているのか、どのような友人と交流があるのか、そして、家庭環境など、様々な視点で行うことが重要です。また、発達の段階に応じた様々な発達のな特徴も見られます。日頃から学級経営の充実を図り、教師と子供の信頼関係及び子供同士の好ましい人間関係を育てるとともに、子供の理解を深めていきましょう。

信頼関係を築く年度当初の出会い

子供一人一人が安心して過ごすことができ、居場所のある学級の生活づくりをするためには教師と子供、子供同士の信頼関係をベースとした学級経営を行っていく必要があります。年度当初に信頼関係を築くための取組を展開することで1年間安定した学級生活づくりをすることができます。

教師と子供の信頼関係づくり

	教師の心構え
出会いを喜び、希望を語る ～ほめてスタート～ 	<input type="checkbox"/> 出会いの場では、第一印象を大切にし、一人一人の子供に笑顔で語りかけます。 <input type="checkbox"/> 教室では、印象的な担任紹介をし、新しい担任・学級に希望をもつことができるようにします。(あいうえお作文等の特技を披露) <input type="checkbox"/> ほめる意識をもち、前向きな声かけに心がけます。 ほめ言葉5S 「さすが、すてき、すごい、すばらしい、それでいい」
安心感の得られる学級の生活づくり 	<input type="checkbox"/> 担任の思いを伝えます。(視線、声のトーン、間のとり方) <input type="checkbox"/> 学級の約束事を確認する時は、毅然とした態度で、一貫性をもって伝えます。 <input type="checkbox"/> 子供の気持ちが安定して安心できる場所になるように、記録に残したり、掲示物で可視化したりします。
居場所のある学級の生活づくり 	<input type="checkbox"/> 一人一人の特性を理解しながら、声かけや支援をします。 <input type="checkbox"/> 多様性を受け入れられる学級の生活づくりには、教師の温かい声かけがモデルになります。 (教師からの明るいあいさつ、「ありがとう」「ごめんなさい」等) <input type="checkbox"/> 子供たちそれぞれのよさを見つけ、言葉で伝えていきます。

子供同士の信頼関係づくり

子供同士が信頼関係を築くために意図的に子供と子供をつなげていく活動を行っていきます。

【例】「ペアトーク」で関係づくり

お互いに質問したり答えたりするペアトークを朝の会などの短い時間で継続して行っていきます。安心して話をするために話の聞き方や質問の仕方も教えるとより効果的に関係性を築くことができます。

ペアトークの話題例

・最近うれしかったこと ・好きな〇〇 ・放課後の過ごし方 ・自分の一番のニュース

あいづちの例

・うんうん ・なるほど ・へえ ・わかるわかる ・そうなんだあ

オープンクエスチョン(思考を広げ深める質問)の例

・もう少し詳しく教えてください ・例えばどんな感じですか ・他にはありますか

朝の会・帰りの会の工夫

毎日行われる朝の会や帰りの会は日直等による輪番制の当番活動として、子供たち全員が経験できるようにします。限られた時間の中で行う活動ですが、学級経営上の大切な役割を担うものとなります。単に連絡や反省の場とならないよう、教育的意義を明確にして取り組みます。

「朝の会」「帰りの会」は、学級担任が学級経営としてマネジメントする時間です

朝の会

「朝の会」は、その日の始まりの時間であり、心の交流を図る大切な時間です。今日一日を大切に過ごそうという気持ちを込めた、あいさつを交わすことから始まります。担任は確実に一人一人の子供の出席状況を確認します。アイコンタクトで健康観察を行うとともに、服装や生活態度などを把握し、声をかけることも大切です。健康観察は、表情や顔色、返事の声等にも気を付けて行います。お互いの健康状態を子供同士で知ることが仲間意識に繋がります。諸連絡や提出物の確認もありますが、効率的に行い、第1校時の授業が時刻通り始まるようにします。

帰りの会

限られた時間の中で、効率よく運営できるようにすることが大切です。一日の学校生活のよさを取り上げ、課題となることを考え、前向きな改善策を取り上げていくことが学校生活の充実と向上を図ることにつながります。

<帰りの会の活動のポイント>

- ① 学校生活の成果を認め合う。(グループや集団としての視点を取り入れる)
- ② 課題を明確にし、次の活動に生かすための改善策を考える。
(翌日へ向けた改善策を中心に取り上げる)
- ③ 自主的な活動を推進する。(係活動などの連絡や調整をする時間を確保する)
- ④ 連絡事項を確認する。(高学年や中学生は聴写してもよい)
- ⑤ 翌日への期待感を高める。(視点を明確にし、見通しをもって計画的に行う)

みんなが大切にされる<友達のよいところの称賛> (例)

帰りの会で、友達のよかったところを発表します。継続して行うことで自然と友達のよいところに目が行くようになり、お互いに認め合える雰囲気生まれます。「今日のMVP」などで同じ人ばかりが取り上げられたりすることがないように方法を工夫することも大切です。



話を「聞く」姿勢を育てる

話を「聞く」姿勢を育てることは、学級経営の基盤となります。「話すこと」に力点を置いた方が「主体的な学び」を促すように感じます。しかし、「自分が何を話すのか」が中心となり人の話を聞いていないことが少なくありません。聞こうとする意識がないと、人の話の内容を理解するのは難しくなります。「聞く」ことに集中すると、自分との共通点や相違点も分かり、学びになります。互いの考えをよく聞くことは、「自分もよくて、みんなもよい」考え方につながります。

「友達の話をしっかり聞きましょう。それが、**自分のため**になります。」

「自分の考えを相手に伝えましょう。それが、**みんなのため**になります。」



学級経営の核となる学級活動の充実

学級経営は人間関係づくりが基盤となり、なかでも学級活動の果たす役割が大きくなります。学級活動を学級経営の基盤に据え、子供たちの自己実現を図っていくことが求められます。

学級活動は、教育課程上、特別活動の内容の一つに位置付けられ、週1コマ・年間35時間（小学校第1学年は34時間）の授業として設定されています。子供たちにとって、最も基本的な所属集団である学級は、学校生活の基盤となる場所であり、一人一人の居場所ではなくてはなりません。学級経営を行う上で、学級活動の充実は人間関係の形成を図ることにつながります。

学級活動は、学校生活において最も身近で基礎的な所属集団である「学級」を基盤とした活動です。様々な集団活動を通して、学級や学校生活の中から集団や個人の課題を見だし解決するための方法や内容をみんなで話し合い、集団として「合意形成」を図り協力して実践したり、一人一人が自己の課題解決について「意思決定」し、実践したりして、よりよい人間関係を築き、学校生活の向上を図ります。

学級活動(1)と(2)(3)の学習過程(例)

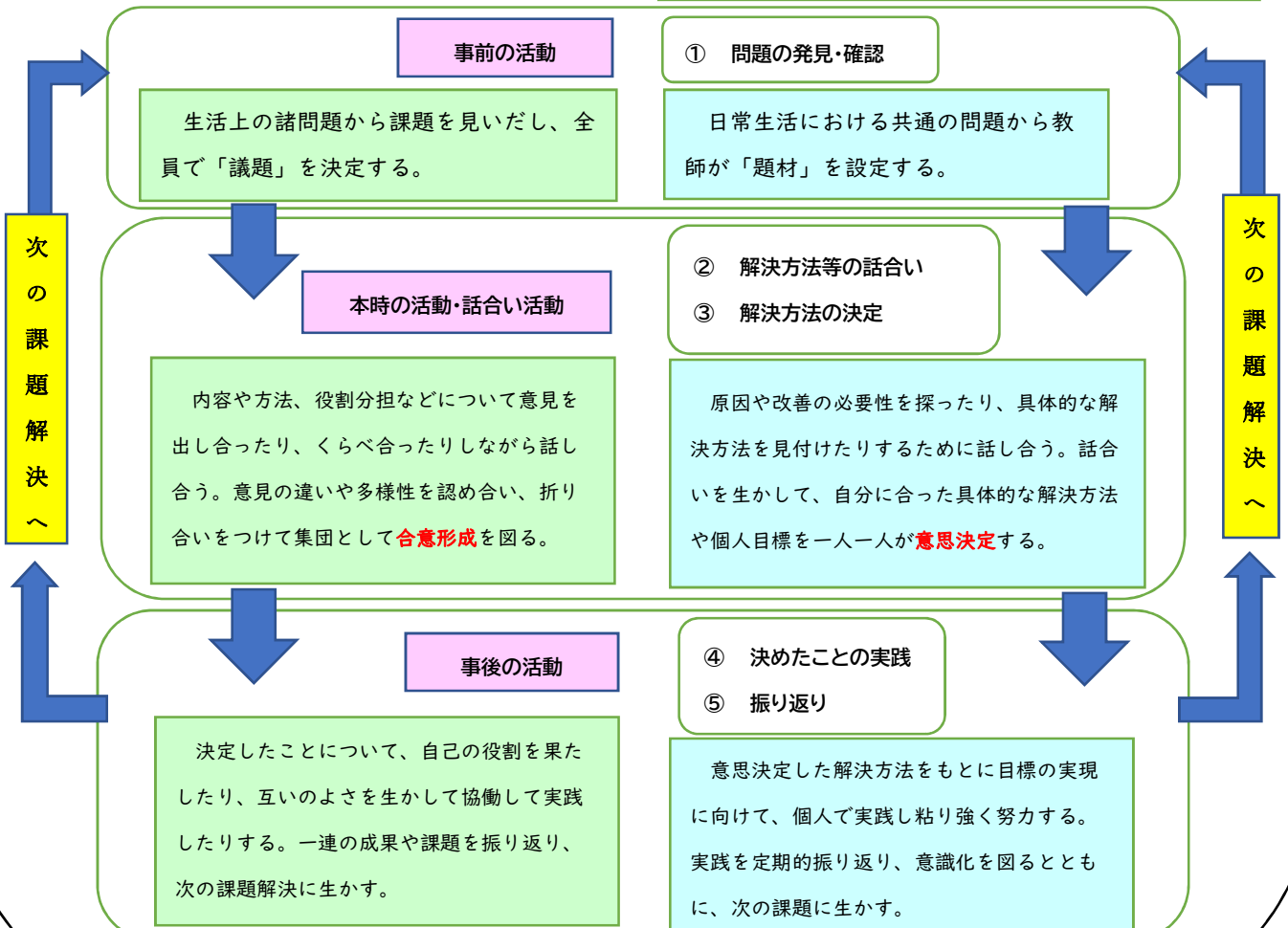
(1) 学級や学校における生活づくりへの参画

(1)は全員で協力して楽しく豊かな学級・学校生活にするために、みんなで取り組みたいこと、つくってみたいこと、解決したいことなどの課題を取り上げる。

(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

(2)は現在の生活上の課題、(3)は現在及び将来を見通した生活や学習に関する課題を取り上げる。



参考:みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(国立教育政策研究所)

年度当初学級活動の3つの実践

教師は、年度当初でまだ緊張感のある子供たちと豊かな関わりをもち、これから過ごす1年間に期待と希望をもてるようにします。新しい学級になり、まだ関係性が築かれていない教師と子供、子供同士が、互いのことを知ることができ、自然な関わり合いをもてるようにすることが大切です。子供たちが学級・学校生活の課題を解決するために話し合い、合意形成して協力して実践したり、意思決定したことに主体的に取り組んで自己の生活をよりよくしたり、希望や目標を前向きに過ごしていけるようにしていきます。

〇年生になって

学級活動（3）

子供たちの抱く「理想の学級生活のイメージ」を学級全員が共有します。学習や人間関係などに関する不安を解消し、期待感を高め、新しい学年での個人目標を設定していきます。（学習・生活・運動等）

目標をもって生活できるようにするために、自分の目標をしっかりと定め、反省と改善を繰り返しながら、前向きに取り組めるようにすることは、子供たちの大きな成長につながります。個人目標や学級目標について、定期的に振り返り、実践意欲の継続化を図ることも大切です。

係活動を決めよう

学級活動（1）学級会

計画委員会や係などの自治的活動の組織づくりのオリエンテーションを行います。係活動について、当番活動との違いを理解して学級活動で話し合って決めることができるようにします。学級生活を豊かにするために、自分の役割を果たせる活動の場が見つかり、自己有用感が高まります。係活動が友達づくりのきっかけになり、協力や信頼を大切に作る意識が高まります。楽しく豊かな学級生活のためには、子供たちの創意工夫ある活動が欠かせません。多様な係があることを知ることも大切です。

どうぞよろしくの会をしよう (進級お祝いの会をしよう)

学級活動（1）

学級会の活動や集団活動による実践活動をスタートします。学級会を行い、子供たちによる自発的・自治的な実践活動に取り組めるようにしていきます。例えば、背面黒板等に「学級活動コーナー」を設置し、活動計画や実践状況を掲示するなど工夫することもできます。議題の提案へつながる子供のつぶやきを見付け、助言することで、問題を発見する視点を伝えます。はじめは教師が助言したり、ときには例示したりすることも必要です。

学級目標と個人目標の設定

<学級目標設定の手順>

- ① 学級目標は、学校の教育目標（目指す児童生徒像）を受けて設定する。
- ② 人格の構成要素である「知育・徳育・体育」の3つの視点で作成する。
- ③ 文末表記は、集団に個が埋没しないよう「～のクラス」ではなく、目指す子供の姿として、「～の子（生徒）」とする。
- ④ 教師の基本理念に基づき、保護者と子供たちの思いや願いも取り入れる。
- ⑤ 子供の自我関与は重視するが、子供の話し合いで決定するのではなく、教師が設定する。
- ⑥ 学級活動（3）題材「〇年生になって」で学級目標を踏まえて、個人目標を設定する。

学級目標の設定

- 「目指す児童（生徒）像」を学級目標として掲示する。（始業式から数日後に行う）

新しい学年に進級すると子供たちには「これからの1年間がどのような学校生活になるのか」「先生はどのような方針でいるのか」などの期待や不安があります。特に最高学年、あるいは中学校入学直後には、その心情は大きくなります。そこで、できるだけ早く設定する必要があるのです。

- 保護者・子供・教師の思いや願いを入れる。

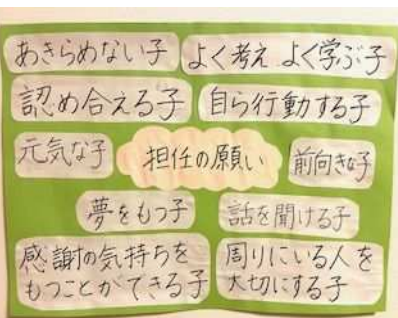
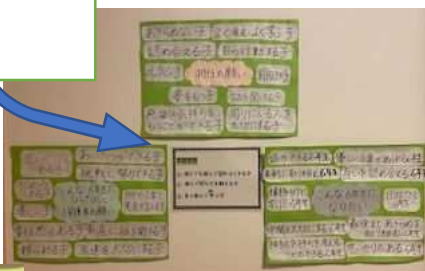
年度当初に学校（担任）の願いを子供たち・保護者に伝えます。そして、保護者会で保護者に学級目標の説明ができるように事前に保護者にアンケートをとります。さらに、子供たちの願いを把握します。知育・徳育・体育の3つの視点で作成するのが基本です。掲示にも子供たちの願い、担任・保護者の願いを合わせて盛り込みます。そして教室の側面・背面などに掲示をします。

学級目標（例）

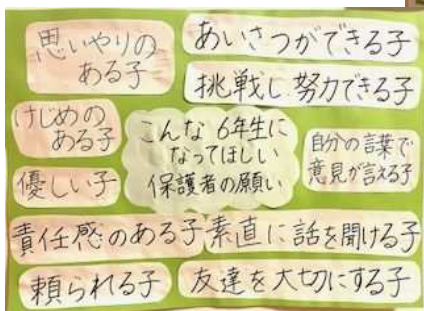
- ㊦ 誰とでもすすんでなかくする子
- ㊦ 進んでからだを鍛える子
- ㊦ 自ら進んでまなぶ子



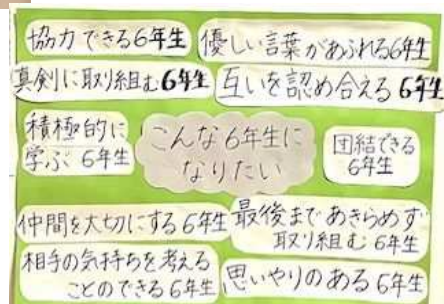
担任の願い



子供たちの願い



保護者の願い



個人目標の設定



学級目標を踏まえ、子供が自分の努力目標を設定できるようにします。個人目標は子供が自分の成長を実感できるような**行動目標**として数値等を入れて、具体的に何をするかを決めていきます。

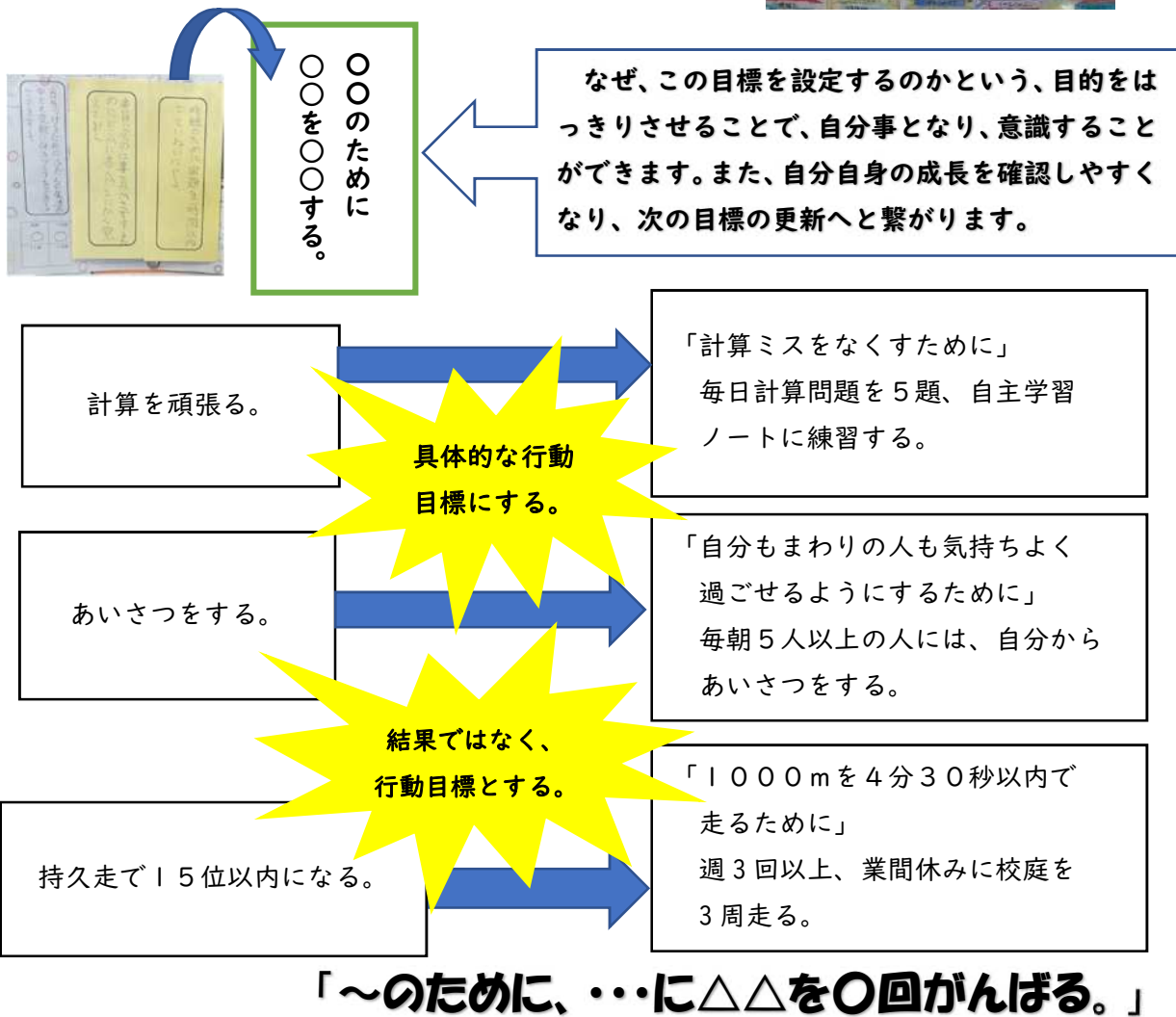
例えば、

「漢字をがんばる」だけでは具体的な行動目標になりません。

「漢字50問テストに合格するために、毎日漢字5個をノートに1行ずつ練習する。」のように設定します。



何をどのように、どのくらい行うのか。



<目標の更新>

基本的には、1か月程度で個人目標は自己評価できるようにします。そして、目標を修正し、改善することが重要です。「よくできた・できた・もう少し」という自己評価に「前の自分より頑張った」という項目を付加することで、個人内評価を重視していく方法もあります。実践できそうだと思う目標をスモールステップで設定し、成功体験を蓄積できるようにしていきます。

係活動と当番活動の特質

学級生活の向上・発展させるための係活動と、学級生活の円滑な運営のための当番の違いを意識し、組織をつくるのが大切です。両者に違いはありますが、どちらも「他者のために働く」という共通点もあります。これらの活動を通して、仲間と協力する態度や集団の一員としての自覚や責任感も育てていきましょう。

係活動と当番の違い

	【係活動】	【当番活動】
特質	「学級生活を向上・発展」	「学級生活の円滑な運営」
領域的区分	教育課程(学級活動・集団活動)	日常生活指導(当番の仕事・集団指導)
ねらい	創意工夫	手順通り・責任
形態	継続	交替(輪番)
組織等	学級会での話し合い	教師による分担

<係活動>

子供の希望を尊重して、係の所属を決めるようにします。各係の仕事に応じて教師がおおよその人数を決めておくスムーズです。

☆学級会で話し合って設定した係は、必ず誰かが所属するようにします。希望者がいなかったり、少なかったりした係については、どうしたらよいかをみんなで話し合います。

☆同じ係への希望が多過ぎる場合は、活動内容を2つに分けたり、子供が自主的に譲り合ったりできるようにします。

係の種類(例) ○本係 ○新聞係 ○生き物係 ○レクレーション係 ○バースデー係 ○歌係 等

※中学校でも、小学校と同じように学級をよりよくするために創意工夫できる係活動を行います。

教科等に関する内容のものは、当番活動とし、係活動は委員会活動を発展させるという実践もあります

発達段階による指導上の留意点

小学校			中学校
低学年	中学年	高学年	
<ul style="list-style-type: none"> ・入門期(4月)は、一人一役で「しごとみつけ」から始める。やがて、集団活動の必要性に気付け、話し合って係をつくる。 ・係活動を通して、友達と仲良く、協力することの大切さを学ぶ。 ・進んで活動できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年の経験をより発展させる意図をもって、話し合って係をつくる。 ・子供の創意工夫を生かし、一人一人のよさが発揮できるようにする。 ・活動の時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学年の経験の上に立って、より発展的な活動を目指して、話し合って係をつくる。 ・自主的に活動を進めることができるようにする。 ・活動時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級の生活をより楽しく豊かにするために生徒自身が創り出す活動にする。

給食を係ごとの班で食べる等…

☆電気係、窓係など、創意工夫できない係は、当番活動として設定します。

☆学級の係全体が活性化するように、係活動コーナーやアイデアを出し合う係ポストを設置したり、朝の会や帰りの会で取組を報告し合ったりすることも効果的です。



☆中学校で教科係を設定する場合は、学習指導要領が示す係活動の趣旨を考慮し、それぞれの教科において生徒の学習生活を豊かにする取組を行う等、自主的な活動運営となるように配慮します。

<学級生活における当番活動（掃除・給食など）>

学級生活における当番活動では、子供たちが協力し、学級に貢献・寄与することの喜びを体感できるようにしていきます。当番活動は、係活動同様に他者の役に立つことで自己有用感を高められる活動です。また、集団生活を円滑に運営するために必要不可欠な活動です。取り組み方も様々な方法があるため、それぞれの長所・短所を理解した上で、学級に取り入れることが大切です。

《清掃の時間》

自己の役割を自覚して協働する意義を理解し、主体的に考えて行動することをねらいとしています。

	個人役割分担制《小学校低・中学年向き》	班役割分担制《小学校高学年・中学校向き》
掲示物		
特徴	個々の役割が明確に示されている。	子供同士で相談して、役割を決める。
長所	<ul style="list-style-type: none"> 自分の役割に対する責任感をもつことができる。 必ず経験者が同じ掃除場所にいるため、作業が円滑に行われやすい。 責任の所在が明確であり、教師が指導しやすい。 など	<ul style="list-style-type: none"> 日常の話合いの頻度が上がり、子供自身が、公平性などを考える契機となる。 席替えと共に班の編成メンバーが変わり、人間関係が固定しない。 など
短所	<ul style="list-style-type: none"> ほぼ同じ人間関係で仕事を行うことになる。 交代する期間によっては、同じ掃除場所が長くなってしまふ。 自分の役割だけを果たせばよいという気持ちが強くなりがちな面がある。 など	<ul style="list-style-type: none"> 話合いで役割を決めるため、人間関係が良好であることが前提となる。 話合いの時間を割くことになる。 役割の不公平さが生じないよう、掃除カードに記録するなど、教師の工夫や指導が必要となる。 など

《給食の時間》

楽しく食事をする事、健康によい食事のとり方などの指導により、望ましい食習慣の形成を図るとともに、食事を通してよりよい人間関係の形成を図ることをねらいとしています。

おかわりの扱い方を明確にする。(公平性)

小学校

中学校

準備と片付けの役割を明確にする。(協働性)





《日直》

日直は、学級生活を円滑に行うため、必要な役割となります。二人で一組として行うことを基本としており、協力し合ってよりよい生活を目指すことをねらいとしています。

年度当初につくった学級での組織を、年間を通していかに機能させるかが、学級経営の重要なポイント！

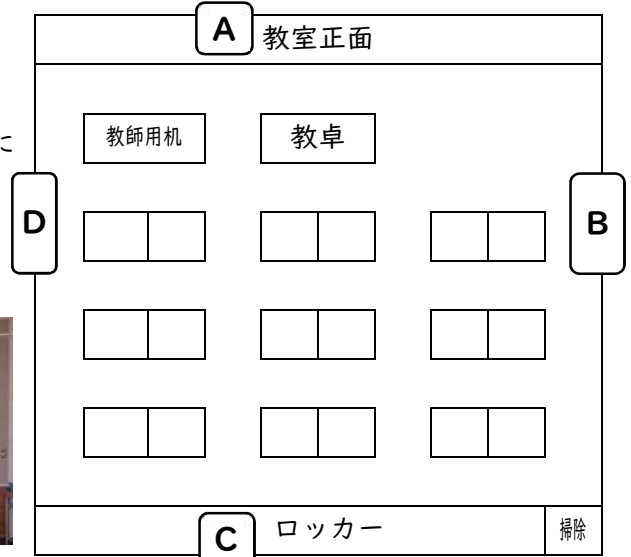
学校生活の基盤となる教室の環境整備

子供たちにとって、教室は学校生活の基盤となります。年度当初から子供たちの生活の基盤として、機能的で生活しやすい教室環境づくりを進めます。

基本的な教室環境(例)

A 正面

- ① 掲示物…学校教育目標（できる限り最小限にする）
- ② 黒板 …授業以外のものは貼らず、チョークの色使いに配慮する。（文字は白と黄色、赤は枠組み等）
- ③ 教師用机（実態や担任の意図により移動可）
- ④ 窓側付近の棚（実態に応じてカーテン等活用）



B 廊下側

- ① 教室内側 …学級のあゆみ（月ごとの写真やメッセージ等）背面に掲示しきれなかったもの、学習コーナー等
- ② 廊下掲示物…図工作品、硬筆・書きぞめ作品等



C 背面

- ① 掲示物…書写の作品、学級目標、生活目標、各種たより、係活動のポスター、各種当番表（給食・清掃・教科）、日課表等
- ② 背面黒板…係からのお知らせや掲示物、時間割表や週の予定表、学級会コーナー、道徳コーナー等



D 窓側

- ① 可能な限り物品等を置かないようにする。（非常口等、安全面も考慮して）
- ② 採光や換気を行うため、窓には掲示物を貼らない。

<文科省「心のバリアフリーノート」環境整備について8つの項目>（参照）

- ①教室前面の掲示物は最小限にします。（学校教育目標）
- ②黒板には授業以外のものは貼らず、チョークの色使いに配慮します。（文字は白と黄色、赤は枠組み等）
- ③掲示物の下地となる色画用紙の色に配慮します。（グリーンやベージュなどの落ち着いた色）
- ④給食当番等の役割をわかりやすく表示します。（写真やイラストなどの表示）
- ⑤掃除用具の片付け方、活動の手順を具体的に提示します。（活動の過程を写真等で順に提示）
- ⑥机の配置場所が誰でもわかるようにします。（わかりやすい目印等の配慮）
- ⑦座席配置は教師が意図をもって行います。（視力、身長等を配慮し、全員が黒板を見やすいようにする）
- ⑧ロッカー等の使い方を明確にします。（効率が良く、使いやすい配置の仕方の共有化）

生徒指導の基礎

生徒指導は、学校の教育目標を達成する上で重要な機能を果たすものであり、学習指導と並んで学校教育において大切な意義をもちます。一人一人の子供の個性の伸長を図りながら、将来において社会的に自己実現ができるような資質・能力を形成していくための指導・援助であり、個々の子供の「自己指導能力」の育成を目指すものです。生徒指導のねらいは、子供の中に「自己指導能力」を育てることにあります。

「自己指導能力」とは、児童生徒の深い自己理解に基づき、そのとき、その場で、どのような行動をとることが適切かについて、自らの行動を決断し、実行する力のことを言います。

<生徒指導の定義>

生徒指導とは、児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のことである。なお、生徒指導上の課題に対応するために必要に応じて指導や援助を行う。

<生徒指導の目的>

生徒指導は児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支えることを目的とする。

<集団指導と個別指導>

集団指導と個別指導は、集団に支えられて個が育ち、個の成長が集団を発展させるという相互作用により、児童生徒の力を最大限に伸ばし、児童生徒が社会で自立するために必要な力を身に付けることができるようにするという指導原理に基づいて行われます。そのためには、教職員は児童生徒を十分に理解するとともに、教職員間で指導についての共通理解を図ることが必要です。

<生徒指導の実践上の視点> 学級経営において基盤となる視点

(1)自己存在感の感受 (2)共感的な人間関係の育成 (3)自己決定の場の提供 (4)安全・安心な風土の醸成

参考：文科省 生徒指導提要 令和4年12月



新しいクラスで、勉強も運動も頑張っていこう。

いじめは絶対に許しません。みんなでよいクラスにしていきましょう。

きっとこのクラスなら、安心して過ごせるな。



<文科省「心のバリアフリーノート」教師の言葉かけ> (参照)

- ① 前置きして話します。(これから三つの話をします。一つ目は、二つ目は、三つ目は～)
- ② 肯定的な言葉をかけます。(「～できなかったら～しない」ではなく「～したら～しましょう」)
- ③ 言葉をイメージ化します。(「静かに廊下を歩きましょう」から「忍者になって廊下を歩きましょう」)
- ④ 具体的な指示を出します。(あっち、たくさん、ちゃんとではなく、目的や終点、量や回数の明確化)
- ⑤ 語調に変化をつけます。(声のトーン、抑揚、速さの変化への配慮)
- ⑥ 非言語動作を活用します。(アイコンタクト、OKサイン、動作やアクションの活用)
- ⑦ 繰り返しを活用します。(子供の発言を繰り返すことによる受容)
- ⑧ よい行為を具体的に褒めます。(「〇〇がよくできていましたね」といった具体的な行為の称賛)